

第3回 丹後地域路線バス利便向上協議会

次 第

日 時 平成 27 年 1 月 16 日 (金) 13:50～

場 所 宮津商工会議所

1 あいさつ

2 議 題

(1) 平成 26 年度丹後地域路線バス利便向上推進事業計画の進捗状況について

- ・ 上限 200 円バスの利用状況について (資料 1)
- ・ 平成 26 年度の取組の結果報告について (資料 2)
- ・ 北近畿タンゴ鉄道沿線地域公共交通網形成計画について (資料 3)

(2) 平成 26 年度の事業評価について (資料 4)

(3) 平成 27 年度の取組について (資料 5)

3 その他

丹後地域路線バス利便向上協議会 委員名簿

		職名		氏名	出欠	職名	氏名	
学識経験者	京都大学大学院工学研究科	助教		大庭 哲治	出席			
経済団体	一般社団法人京都経済同友会	北部部長		今井 一雄	出席			
利用者代表	宮津市老人クラブ連合会	会長		今井 芳男	代理	副会長	橋本 博司	
	京丹後市老人クラブ連合会	会長		尾瀬 崇	出席			
交通事業者等	伊根町PTA連絡協議会	会長		菱田 誠	出席			
	与謝野町民生児童委員協議会	会長		山崎 洋介	出席			
	丹後海陸交通(株)	取締役社長		小倉 信彦	出席			
	北近畿タンゴ鉄道(株)	総務部次長		永本 正勝	出席			
	峰山自動車(株)	代表取締役社長		矢谷 平夫	欠席			
	日本交通(株)宮津営業所	所長		松田 浩	出席			
	丹後土木事務所	技術次長		矢野 三生男	代理	企画調整室長	前川 眞吾	
公安委員会	宮津警察署	交通課長		桐田 達	出席			
	京丹後警察署	交通課長		白井 里志	欠席			
市町	宮津市	企画総務室長		河嶋 学	出席			
	京丹後市	企画総務部長		木村 嘉充	出席			
	与謝野町	企画財政課長		植田 弘志	出席			
	伊根町	企画観光課長		泉 良悟	代理	主査	小山 晋司	
国、府	近畿運輸局	自動車交通部旅客第一課長		西川 孝秀	出席			
	京都運輸支局	首席運輸企画専門官		川合 宏和	出席			
	京都府		首席運輸企画専門官		若林 隆司	欠席		
			建設交通部交通政策課長		村尾 俊道	出席		
	丹後広域振興局 企画総務部企画振興室長		宮田 英樹	代理	副室長	高屋 秀		

資料1

平成25年10月～平成26年9月 上限200円バス

利用者数の成績

宮津・与謝地域

乗車人員目標数値 255,000人
(24年度利用者数の1.5倍)

単位：人

24年度	23年10月～	第1四半期(10～12月)	第2四半期(1～3月)	第3四半期(4～6月)	第4四半期(7～9月)	計		
		伊根線・蒲入線・ 経ヶ岬線	29,289	31,054	31,292	35,708	127,343	
	与謝線・福知山線	8,411	9,729	11,715	11,655	41,510		
	計	37,700	40,783	43,007	47,363	168,853		
	累計	37,700	78,483	121,490	168,853	168,853		
26年度(実証1年目)	25年10月～	第1四半期(10～12月)	第2四半期(1～3月)	第3四半期(4～6月)	第4四半期(7～9月)	計	対24年度比	
		伊根線・蒲入線・ 経ヶ岬線	48,054	50,929	46,316	58,862	204,161	160.3%
		与謝線・福知山線	11,465	11,922	11,434	12,478	47,299	113.9%
		計	59,519	62,851	57,750	71,340	251,460	148.9%
		対24年度比	157.9%	154.1%	134.3%	150.6%		
		累計	59,519	122,370	180,120	251,460	251,460	
	対24年度比	157.9%	155.9%	148.3%	148.9%			

(参考)

25年度	24年10月～	第1四半期(10～12月)	第2四半期(1～3月)	第3四半期(4～6月)	第4四半期(7～9月)	計
		伊根線・蒲入線・ 経ヶ岬線	30,284	30,710	34,411	36,695
	与謝線・福知山線	8,375	10,936	12,251	10,000	41,562
	計	38,659	41,646	46,662	46,695	173,662
	累計	38,659	80,305	126,967	173,662	173,662

京丹後市域

乗車人員目標数値 370,000人
(25年度利用者見込み数を維持)

単位：人

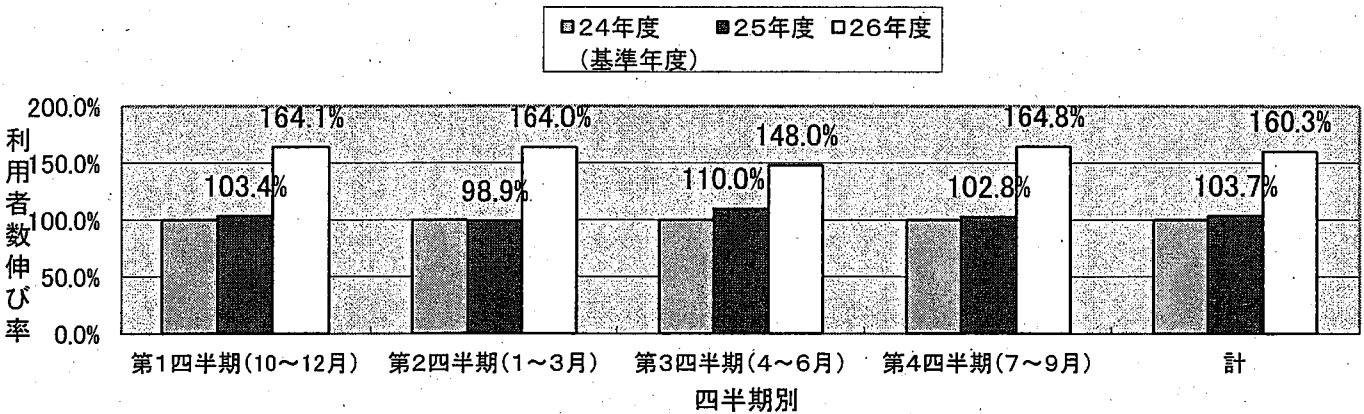
25年度	24年10月～	第1四半期(10～12月)	第2四半期(1～3月)	第3四半期(4～6月)	第4四半期(7～9月)	計		
		京丹後市域	80,068	87,425	95,797	99,293	362,583	
	累計	80,068	167,493	263,290	362,583	362,583		
26年度(実証1年目)	25年10月～	第1四半期(10～12月)	第2四半期(1～3月)	第3四半期(4～6月)	第4四半期(7～9月)	計	対25年度比	
		京丹後市域	72,241	82,005	94,951	99,656	348,853	96.2%
		対25年度比	90.2%	93.8%	99.1%	100.4%		
		累計	72,241	154,246	249,197	348,853	348,853	
	対25年度比	90.2%	92.1%	94.6%	96.2%			

※目標数値については、利用促進を図る中で利用者を増加させながら、平成27年9月末時点での1年間の利用者数を目指している

宮津・与謝地域において平成26年9月末時点でほぼ目標を達成したことから
上限200円導入前の運賃収入確保に向けた利用者数340,000人
(導入前の2倍)を次の目標とする。

伊根線・蒲入線・経ヶ岬線

年度別利用者増減率推移



利用者数	第1四半期(10~12月)	第2四半期(1~3月)	第3四半期(4~6月)	第4四半期(7~9月)	計
24年度 (基準年度)	29,289	31,054	31,292	35,708	127,343
25年度	30,284	30,710	34,411	36,695	132,100
26年度	48,054	50,929	46,316	58,862	204,161

主な利用者

- 宮津駅利用、宮津高校・橋立中学校・吉津小学校への通学や与謝の海病院への通院など
- 伊根、宇川温泉の観光客等も利用

主な取組内容

- H25.10月ダイヤ改正で経ヶ岬線を延伸、伊根線を増便

<広報誌やホームページ等による啓発活動>

- 各市町の広報誌に毎月掲載、ホームページに200円バスのページを作成し、トップページにバナーを設置
- 与謝野町及び宮津市にて200円バスCMを製作、ケーブルテレビで放送
- 宮津市にて啓発のぼり120本作成
- 与謝野町にてSNS(Facebook)による情報発信

<地元説明会>

- 宮津市にて11月に自治連総会で説明、3月に世屋・日置地区で説明会を実施
- 与謝野町にて7月の町政懇談会(9ヶ所)で説明、与謝地区や老人会等の総会にて出前講座を実施
- 伊根町にて老人会で説明会を実施(3回、7ヶ所)

<学校等への啓発活動>

- 各小学校へ200円バスやバスエコファミリーのチラシを配布
- 6月27日宮津高校伊根分校においてマナーアップ講座を実施
- 与謝野町にて園長会及び校園長会にて学校、保育所・幼稚園でのバス利用を啓発
- 宮津市及び伊根町にて校園長会議にてバス利用を啓発・依頼

<アンケート調査等>

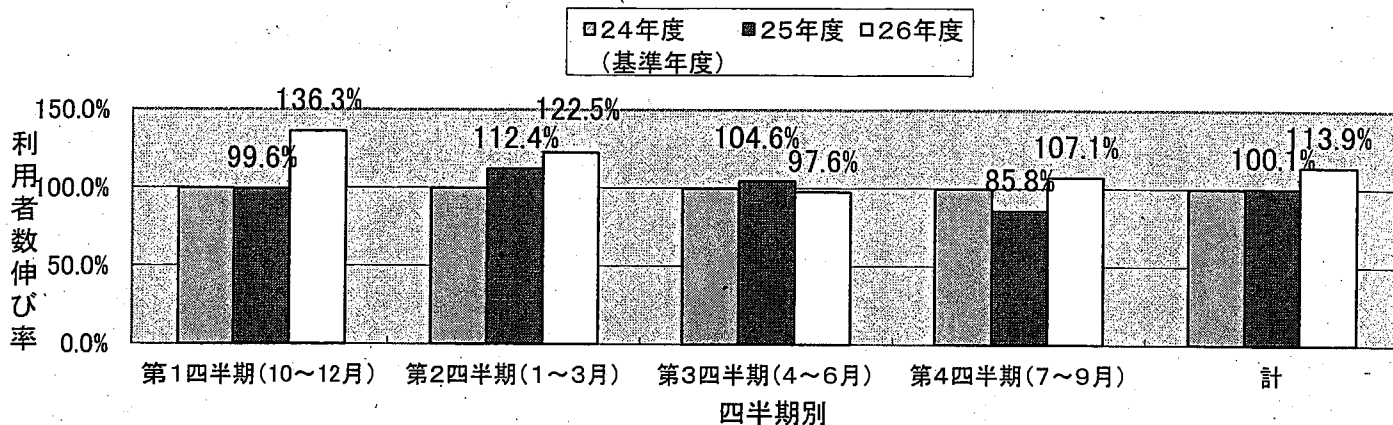
- 伊根町にて宮津高校伊根分校に生徒アンケート調査を実施

総評

- 目標数値の150%を達成しており、順調に推移
- 今後、一般利用者、観光客などさらなる利用促進に取り組む

与謝線・福知山線

年度別利用者増減率推移



利用者数	第1四半期(10~12月)	第2四半期(1~3月)	第3四半期(4~6月)	第4四半期(7~9月)	計
24年度 (基準年度)	8,411	9,729	11,715	11,655	41,510
25年度	8,375	10,936	12,251	10,000	41,562
26年度	11,465	11,922	11,434	12,478	47,299

主な利用者

- 与謝線は野田川駅利用、加悦谷高校への通学や与謝の海病院への通院など
- 福知山線は加悦谷高校、京都共栄学園高校など(福知山エリアの高校)への通学や与謝の海病院への通院など

主な取組内容

- 与謝線の増便

<広報誌やホームページ等による啓発活動>

- 各市町の広報誌に毎月号掲載
- 与謝野町にて200円バスCMを製作、ケーブルテレビで放送
- 与謝野町にて200円バスのページを市HPに作成し、トップページにバナーを設置
- 与謝野町にてSNS(Facebook)による情報発信

<地元説明会>

- 与謝野町にて7月の町政懇談会(9ヶ所)で説明、与謝地区や老人会等の総会にて出前講座を実施

<学校等への啓発活動>

- 各小学校へ200円バスやバスエコファミリーのチラシを配布
- 与謝野町にて園長会及び校園長会にて学校、保育所・幼稚園でのバス利用を啓発
- 与謝野町にて加悦谷高校へチラシ配布

<アンケート調査等>

- 与謝野町が加悦谷高校生徒へのアンケート調査を実施
- 与謝野町がKTR野田川駅で車送迎の通学者アンケート実施(チラシも配布しバス利用を啓発)

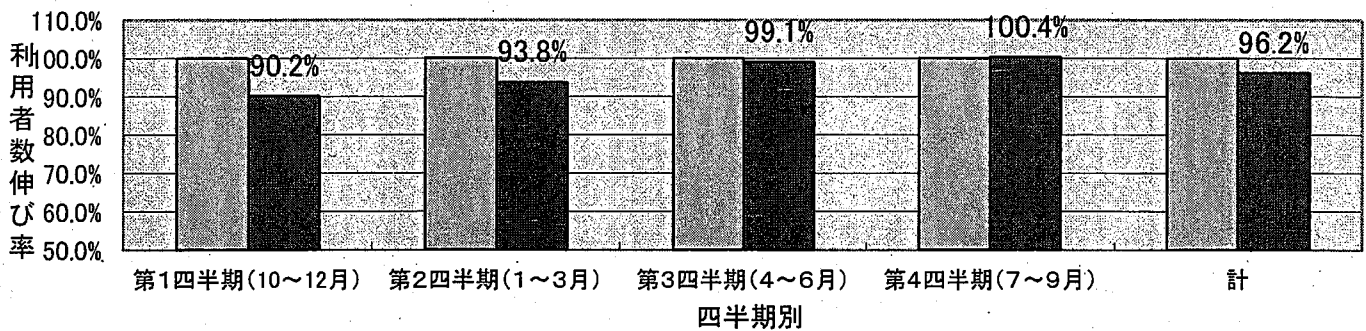
総評

- 開始当初(第1四半期)の伸びは良かったがその後頭打ちの状態
- 今後、老人会等への利用促進や野田川駅まで車利用している高校生へのバス利用促進の継続などに取り組む

京丹後市域

年度別利用者増減率推移

□25年度 ■26年度
(基準年度)



利用者数	第1四半期(10~12月)	第2四半期(1~3月)	第3四半期(4~6月)	第4四半期(7~9月)	計
25年度 (基準年度)	80,068	87,425	95,797	99,293	362,583
26年度	72,241	82,005	94,951	99,656	348,853

主な利用者

- 峰山線、病院線、延利線は峰山高校等への通学やショッピングセンターメインへの買い物など
- 間人線、間人循環線、海岸線は峰山高校、網野高校その他の各高校への通学
丹後中央病院、弥栄病院等の京丹後市内の病院への通院など
- 久美浜線は主に峰山高校、久美浜高校への通学など

主な取組内容

- H25.10月ダイヤ改正で、経ヶ岬線の延伸、峰山線の一部休止を実施
- H26.10月ダイヤ改正で、丹後峰山線を新設

<広報誌やホームページ等による啓発活動>

- 京丹後市にて200円バスのページを市HPに作成
- 京丹後市にて200円バスの主な取組み経過等について、広報紙で紹介
- 京丹後市にて「路線バスと鉄道で行く海の京都めぐり」ポスターを作製し、バス待合所や公共施設等へ掲出

<地元説明会>

- 京丹後市にて丹後町民生委員定例会などで新設路線(丹後峰山線)の周知
- 京丹後市にて高齢者大学(弥栄町、大宮町)で出前講座を実施

<学校等への啓発活動>

- 京丹後市にて各小学校へ200円バスやバスエコファミリーのチラシを配布
- 京丹後市にて小学校(10月2日:長岡小学校及び丹波小学校、11月8日:峰山小学校)で出前講座を実施
- 与謝野町にて1月24日に岩屋小学校で出前講座を実施
- 京丹後市にて2月17日多機能型支援センター「ろむ」で出前講座を実施
- 京丹後市にて網野高校および網野高校間人分校で公共交通機関の利用マナー等に係る出前講座を実施

総評

- 四半期毎の推移は順調に伸びている。
- 今後、高齢者や外国人を対象とした出前講座の実施など新たな利用者の確保に取り組む

運賃収入（宮津・与謝地域）

（定期券・回数券の売上額は全て売上月に計上。平準化せず）

単位：千円

24年度	23年10月～	第1四半期（10～12月）	第2四半期（1～3月）	第3四半期（4～6月）	第4四半期（7～9月）	計		
		伊根線・蒲入線・ 経ヶ岬線	11,945	12,658	13,030	14,442	52,075	
	与謝線・福知山線	3,150	3,692	4,260	4,243	15,345		
	計	15,095	16,350	17,290	18,685	67,420		
	累計	15,095	31,445	48,735	67,420	67,420		
26年度（実証1年目）	25年10月～	第1四半期（10～12月）	第2四半期（1～3月）	第3四半期（4～6月）	第4四半期（7～9月）	計	対24年度比	
		伊根線・蒲入線・ 経ヶ岬線	8,957	9,589	8,958	10,437	37,941	72.9%
		与謝線・福知山線	2,817	2,981	3,075	3,382	12,255	79.9%
		計	11,774	12,570	12,033	13,819	50,196	74.5%
		対24年度比	78.0%	76.9%	69.6%	74.0%		
		累計	11,774	24,344	36,377	50,196	50,196	
		対24年度比	78.0%	77.4%	74.6%	74.5%		

・ぐるっと丹後周遊バスは含まず

（参考）

25年度	24年10月～	第1四半期（10～12月）	第2四半期（1～3月）	第3四半期（4～6月）	第4四半期（7～9月）	計	
		伊根線・蒲入線・ 経ヶ岬線	12,369	12,478	13,901	13,513	52,261
		与謝線・福知山線	3,085	3,890	4,306	3,392	14,673
		計	15,454	16,368	18,207	16,905	66,934
		累計	15,454	31,822	50,029	66,934	66,934

- 現在利用者数は上限200円バス導入前の約1.5倍であるが、運賃収入は導入前の約75%水準にとどまっている。
- 運賃収入を上限200円バス導入前の水準に回復するには、導入前の約2倍の利用者増加が必要

ぐるっと丹後周遊バス 運行実績

ぐるっと丹後周遊バスは、平成26年7月19日から11月30日まで、天橋立駅を起点として丹後半島の周遊性を高めるため運行した周遊バス。
 (経路：天橋立駅→元伊勢籠神社→伊根湾めぐり日出→伊根→経ヶ岬展望所→宇川温泉よし野の里→屏風岩→てんきてんき村→琴引浜→網野駅→浜詰・夕日ヶ浦)

■利用者数

(単位：人)

平成26年	運行日数	計	累計	ぐるたんパス 発売数
7月	5	185	185	21
8月	8	234	419	28
9月	10	414	833	55
10月	9	311	1,144	23
11月	12	691	1,835	79
合計	44	1,835		206

※乗車人員は延人員です

■1便当たり平均乗車人員

平成26年	運行便数	計	累計
7月	40	4.6	4.6
8月	64	3.7	4.0
9月	80	5.2	4.5
10月	71	4.4	4.5
11月	96	7.2	5.2
合計	351	5.2	

- ・ 8月10日、台風のため8便全て運休。
- ・ 8月17日、大雨のため8便全て運休。
- ・ 10月13日、台風のため15:40発 1便運休。

- ・ 運行期間中44日間、351便運行

利用促進の取組状況について

27.1時点

		事業内容	取組内容
速やかに改善（H25、H26）	ダイヤ・路線	パターンダイヤの設定	丹後海陸交通(株) ・市町と共同で利用者ニーズを重視したダイヤ設定を実施 ・パターンダイヤ導入にはクリアする課題が多く検討中
		接続の取れたダイヤ設定	丹後海陸交通(株) ・平成26年3月15日のダイヤ改正についてJR・KTRとの調整を実施
		観光地・施設へのアクセス強化、丹後半島周遊観光コース設定<観光>	各市町 丹後海陸交通(株) ・丹後半島周遊のモデルコースを作成し、2市2町総合時刻表にそれぞれが掲載 ・H26.07月海の京都線(ぐるたんバス)を新設
		バス路線の再編成	丹後海陸交通(株) 各市町 ・H25.10月ダイヤ改正で、経ヶ岬線の延伸、伊根・与謝線などの増便、峰山線の一部休止を実施 ・H26.10月ダイヤ改正で、丹後峰山線を新設
	運賃	運賃改定について	丹後海陸交通(株) ・H25.10月改正から上限200円運賃を設定(宮津・与謝エリアを2ブロック)
		企画キップ(丹後半島周遊)等の販売	丹後海陸交通(株) ・H25.10月から新たな企画キップを販売。2日間丹後全域の路線バスや観光船などの乗り放題フリーキップを販売。 ・H26.07月からバスと鉄道・バス(乗り放題)と観光船がセットとなったフリーキップを販売。
		外国人観光客に対する企画キップ(丹後地域周遊)の販売	丹後海陸交通(株) ・H26.4月から訪日観光客向けの公共交通周遊バスを発売
	停留所	バス停留所のバス待ち環境整備(施設への乗り入れや停留所へのベンチ設置)	丹後海陸交通(株) 各市町、地域住民 ・宮津高校建築科寄贈の波型ベンチを9月末に与謝の海病院バス停に設置、また日置診療所前にもバス待合所を設置予定
		バス停の名称変更(観光客にとってわかりやすい名称へ変更)	丹後海陸交通(株) 各市町 ・与謝野町内…6ヶ所 宮津市内…3ヶ所 京丹後市内…6ヶ所
		バス停の増設	丹後海陸交通(株) 各市町 ・宮津市2ヶ所(丹後郷土資料館前・中野本坂) ・京丹後市4ヶ所(宇川温泉よし野の里・峰山駅東口・荒山大橋前・丹後中学校) ・与謝野町2ヶ所(野田川丹海前・水戸谷)
		分かりやすい停留所標柱の整備	丹後海陸交通(株) ・主たる観光スポットの停留所に多言語表記を随時実施 ・その他、停留所へも適宜更新
		美化活動等	関係市町・地元住民、利用者、丹後海陸交通(株) ・丹後海陸交通が定期的に巡回し清掃活動を実施 ・伊根町…10月バス停周辺の清掃活動を実施
車両	車内での観光案内	丹後海陸交通(株) ・京丹後市エリアで一部の運転手が観光名所のアナウンスを実施しているが、宮津与謝地域の多くの路線での実施には至っていない。	

速やかに改善（H25、H26）

情報提供

その他

総合時刻表の作成	各市町 丹後海陸交通(株)	・丹後2市2町・丹海がそれぞれ9月と3月に作成。 市町は全世帯に配布
各市町広報誌やホームページ等による啓発活動	各市町 丹後海陸交通(株)	<ul style="list-style-type: none"> ・H25.8月から1市2町の広報誌に毎月号掲載 ・与謝野町・宮津市でそれぞれ200円バスCMを製作 ・宮津市で啓発のぼり120本作成 ・宮津市…200円バスのページを市HPに作成し、トップページにバナーを設置 ・与謝野町…200円バスのページを町HPに作成し、トップページにバナーを設置 ・与謝野町…京都・大阪からちりめん街道までのバス・鉄道乗り継ぎ表を作成、町HPに公開 ・与謝野町…SNS (Facebook) による情報発信 ・京丹後市…「路線バスと鉄道で行く海の京都めぐり」ポスターを作製し、バス待合所や公共施設等へ掲出 ・京丹後市…200円バスのページを市HPに作成 ・伊根町…200円バスのページを町HPに作成し、トップページにバナーを設置 ・丹後海陸…トップページに200円バスの情報を配信、バナーを設置
地元説明会の開催	各市町	<ul style="list-style-type: none"> ・与謝野町…7月の町政懇談会（9ヶ所）で説明、与謝地区や老人会等の総会などにて出前講座を実施 ・宮津市…11月自治連総会で説明。3月に世屋・日置地区で説明会を実施 ・京丹後市…丹後町民生委員定例会などで新設路線（丹後峰山線）について説明 ・京丹後市…高齢者大学（弥栄町、大宮町）などにて出前講座を実施 ・伊根町…老人会で説明会を実施（3回、7か所）
上限200円バス出発式の開催	丹後海陸交通(株)	・平成25年10月1日に宮津駅で実施
バス車両を活用した啓発	丹後海陸交通(株)	・車両側面と後方にカットニングシートによるPR
乗務員の丁寧な対応	丹後海陸交通(株)	・毎月、丹海による乗務員教育を実施
学校等へのバス利用の啓発活動	各市町 丹後海陸交通(株)	<ul style="list-style-type: none"> ・各小学校へ200円バスやバスエコファミリーチラシを配布 ・出前講座 <ul style="list-style-type: none"> 1/24岩屋小学校 2/17多機能型生活支援センター「ろむ」 6/27伊根分校 10/2長岡小学校、丹波小学校 11/8峰山小学校 ・与謝野町が加悦谷高校へチラシを配布 ・バスの乗り方マナー講座（岩屋小学校1、2年生） ・与謝野町…園長会及び校園長会にて学校、保育所・幼稚園でのバス利用を啓発 ・バスの乗り方マナー講座（宮津高校伊根分校1、2、3年生） ・宮津市…校園長会議において、バス利用を啓発・依頼 ・伊根町…校園長会議において、バス利用を啓発・依頼

速やかに改善 (H26) (H25)	その他	OD調査の実施	丹後海陸交通(株) 各市町	・毎年、6月・12月に丹海が乗降調査を実施
		利用者へのアンケート調査等モビリティ・マネジメントの実施	各市町 丹後海陸交通(株)	・与謝野町…加悦谷高校に生徒アンケート調査を実施(H26年度は利用を呼び掛けるチラシも同時配布)、KTR野田川駅でアンケートを実施(H25はバス利用者に対し、H26は車利用者に対し実施し同時にチラシも配布し直接利用を呼びかけた) ・京丹後市…網野高校及び網野高校間人分校において公共交通機関の利用マナー等に係る出前講座を実施 ・伊根町…宮津高校伊根分校に生徒アンケート調査を実施 ・宮津市…宮津与謝エリアでバス利用の意向調査を実施予定
中長期	停留所	バス停の上屋整備、待合施設整備(乗り継ぎ結束点から優先して整備)	各市町 丹後海陸交通(株)	・与謝の海病院バス停留所の待合改善へ向けて、北部医療センターと協議中
将来的な課題	ダイヤ	丹後半島パルスタイムテーブル化	交通事業者	・H26.7月から海の京都線に導入し、パターンダイヤ化及び天野橋立駅・網野駅でKTRと接続
	運賃	ICカードの導入	丹後海陸交通(株)	
		割引乗車券の創設	丹後海陸交通(株)	
	停留所	バス停の上屋整備、待合施設整備	丹後海陸交通(株) 各市町	
		バス停留所へのレンタサイクルの設置	各市町	・伊根町…H25.10月主要バス停留所付近にコミュニティサイクルを設置
車両	分かりやすく魅力的な車両の導入	丹後海陸交通(株)	・丹海が平成26年7月19日から周遊バス運行に伴い、改装バスを導入	
情報	ITを活用した情報提供	丹後海陸交通(株) 検索社 IT運営会社	・ナビタイム・駅すぱあと・ジョルダンで情報提供	

北近畿タンゴ鉄道沿線地域公共交通網形成計画について

北近畿タンゴ鉄道（以下「KTR」）については、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づき、鉄道事業の再構築を進めるため、持続可能な地域公共交通網の形成に資する計画として「北近畿タンゴ鉄道沿線地域公共交通網形成計画（以下「形成計画」）」を策定し、平成26年12月19日に国に提出（全国で第1号となる形成計画）

1 計画の目的

KTRを基軸として持続可能な地域公共交通網の形成を図るために必要となる取組を示す

2 計画の期間

平成26年12月19日～平成37年3月31日（概ね10年間）

3 計画の区域

京都府の福知山市・舞鶴市・宮津市・京丹後市・伊根町・与謝野町及び兵庫県の豊岡市（2府県7市町）のKTR沿線地域

4 計画の目標（目指すべき将来像）

10年後に目指すべき「沿線地域の姿」「公共交通の姿」を提示

5 具体的な取組の内容

- (1) KTRの持続可能な事業スキームによる再構築等
 - ・上下分離による鉄道事業の再構築等
- (2) 公共交通ネットワークの改善
 - ・圏域へのアクセス時間の短縮
 - ・公共交通ネットワークの利便性向上
- (3) 安心・安全対策の実施
 - ・安心・安全に向けた設備・体制の整備
- (4) 集客・増収対策の実施
 - ・魅力的で快適な車両の整備
 - ・沿線事業所・住民と連携した取組 等
- (5) まちづくりとの連携
 - ・集約型のまちづくりと都市・地域間の連携 等

『北近畿タンゴ鉄道沿線地域公共交通網形成計画』

○ 目指すべき将来像

まちづくりや観光振興など、地域戦略と一体となって、持続可能な地域公共交通網の形成を図ることとし、それにより圏域全体の振興を進める。

目指すべき『沿線地域の姿』

- 自分たちのまちとして誇りが持て、住み続けたいと思ふ地域
- 自動車を利用できなくとも、公共交通だけで暮らしていける地域
- 魅力的な観光圏として、国内外から多くの人が集まる地域
- 元氣な産業・新たな雇用が生まれ、域外の人に移り住みたいと思ふ地域

目指すべき『公共交通の姿』

- 地域の人々や企業から信頼される、安心・安全な公共交通
- 便利で魅力的で、乗りたくなる、みんなに愛される公共交通
- まちづくりの中核を担い、地域を支える公共交通
- 国内外からの来訪者に対応できる、世界に通用する水準の公共交通
- 交通モード相互の連携が図られ、誰もが使いやすい公共交通

○ 具体的な取組内容

実現に向けて
取組むべき施策

① KTRの持続可能な
事業スキームによる
再構築

② 公共交通ネットワー
クの形成

③ 安心・安全対策の実施

④ 集客・増収対策の実施

⑤ まちづくりとの連携

具体的な取組

a. 上下分離による鉄道事業の再構築等

b. 圏域へのアクセス時間の短縮

c. 公共交通ネットワークの利便性向上

d. 安心・安全に向けた設備・体制の整備

e. 魅力的で快適な車両等の整備

f. 快適性・利便性・魅力の向上

g. ターゲットを明確にした取組みの実施

h. 沿線の事業所、住民等と連携した地域主体の取組み

i. コンパクトなまちづくりと都市・地域間の連携

j. 海の京都等による観光まちづくり

k. 環境にやさしいまちづくり

個別の対策

- 運営の抜本的改革(上下分離による民間の知恵の導入)
- 支援スキームの見直し(経営責任を明確にし、自治体は基盤部分に補助)
- 京阪神方面とのアクセス強化による利便性向上
- 首都圏・海外からの拠点である関西国際空港等からのアクセス改善の検討
- 都市間の移動時間の短縮
- クルーズ船との連携
- 丹後半島ハルスタイムテーマブル化等の検討
- 鉄道とアクセス交通との連携
- 丹後半島を回遊する観光周遊ルート等の整備
- KTR駅から目的地までの公共交通網の再編
- 鉄道施設(軌道・構造物等)の快適性及び安全性の更なる向上
- デザイン車両の利用促進
- 車両等の快適化に向けた計画的整備
- 駅待ち集境・駅施設の改善
- 駅のバリアフリー化
- 自動券売機の導入、IC-Tの活用
- 情報ポータルサイトの整備
- 地域やJR等と連携した観光情報/乗継情報の提供、プロモーション
- 外国人向けサービスの充実
- 行政職員への積極利用の働きかけ
- モビリティ、マネジメントの実施
- 学校行事やイベントでの利用促進
- 都市計画、マスタープラン等における位置づけの明確化
- 駅周辺等への都市機能の再配置
- 新駅の検討
- 駅機能・駅周辺の再整備及び未利用地の活性化
- 観光地の魅力向上
- E.V.タクシー等の環境にやさしい交通手段の導入
- 自転車の積極的な利用促進

3.6 目標とする指標

本計画が目指す将来像が実現したかどうかを計る指標として、次に示す項目により評価を行うこととする。

表 各項目の目標数値

項目	内容	目標数値等	
		現状	目標
① KTRの持続可能な事業スキームによる再構築			
a. 上下分離による鉄道事業の再構築等	・ KTRの年間輸送人員	186.2 万人	㉑200 万人
〔運行会社の利用促進に加え、自治体がさらに利用促進策を実施することで達成を目指す目標値〕			
② 公共交通ネットワークの形成			
b. 圏域へのアクセス時間の短縮	・ 京阪神（大阪・京都）方面から朝一番の特急による天橋立駅への到着時刻	11 時 3 分	㉑ 9 時台
	・ 関西空港からのアクセス時間（峰山まで）	約 4 時間	㉑ 3.5 時間
c. 公共交通ネットワークの利便性向上	・ 宮津～福知山間の普通列車の所要時間	50 分	㉑ 45 分
	・ 沿線地域のバス年間輸送人員	丹後地域 625 千人	㉑ 625 千人
③ 安心・安全対策の実施			
d. 安心・安全に向けた設備・体制の整備	・ 安全評価外部委員会及び自治体との安全に関する連絡協議会の開催	0 回	㉑ 2 回以上/年
④ 集客・増収対策の実施			
e. 魅力的で快適な車両等の整備	・ デザイン列車の利用者数	40,600 人	㉑ 70,000 人
f. 快適性・利便性・魅力の向上	・ 公共交通ポータルサイトの構築	なし	㉑ あり
	・ 駅構内のバリアフリー化(EV、スロープの設置等)	13 駅	㉑ 18 駅
g. ターゲットを明確にした取り組みの実施	・ 沿線地域への訪日外国人数(宿泊客数)	丹後地域 16,453 人	㉑ 20,000 人
	・ KTR 駅でのクレジットカード利用可能な駅	2 駅	㉑ 5 駅
h. 沿線の事業所、住民等と連携した地域主体の取り組み	・ 職場への公共交通利用の働きかけ(MM)の実施市町村数	1 市	㉑ 5 市町
⑤ まちづくりとの連携			
i. コンパクトなまちづくりと都市・地域間の連携	・ 駅周辺の常住人口(国勢調査)	㉒ 73,611 人	㉑ 73,611 人
	・ 駅周辺の従業人口(経済センサス)	㉒ 53,634 人	㉑ 53,634 人
	・ 自動車分担率(P T調査。平日 7 市町平均)	㉒ 70.1%	㉑ 66.6% (▲5%)
j. 海の京都等による観光まちづくり	・ 観光入り込み客数	㉒ 906 万人	㉑ 1,090 万人

※『目標数値等』の「現状」欄で数字のないものは、25 年度または 25 年度末

事業名：平成26年度地域公共交通協働推進事業

丹後地域路線バス利便向上協議会

協働推進事業の概要

【目的】
 地域全体が連携し、中長期的に路線バスを当該地域の公共交通として健全に維持する。

【事業実施期間】
 平成25年10月～28年9月

【定量的な目標】
 平成27年9月末時点：1年間の利用者数625,000人が到達目標(※)(平成24年9月末時点の1.1倍)

●宮津・与謝地域は255,000人(24年度利用者数の1.5倍)
 ●京丹後地域は370,000人(25年度利用者見込数を維持)

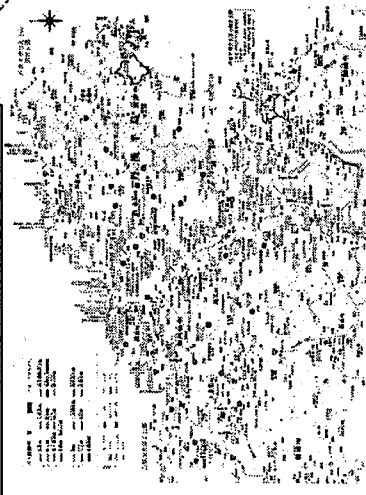
【目標達成状況】
 宮津・与謝地域においては、平成26年度9月末時点での目標を212,500人(23年度の1.25倍)と定めており、実績が251,460人の利用があり、目標を達成している。

京丹後地域においては、平成26年9月末時点での目標370,000人に対し、実績は348,853人であり、今後更なる利用促進の取組が必要である。

※到達目標とは実施年度で達成する目標ではなく、取組を継続する中で利用者を増加させながら2年～3年程度の目安で到達させる目標のこと

参考資料

丹後地域の公共交通路線図



丹後地域

【協議会開催状況】
 平成25年8月28日
 第1回丹後地域路線バス利便向上協議会開催
 平成26年3月18日
 第2回丹後地域路線バス利便向上協議会開催
 平成27年1月16日
 第3回丹後地域路線バス利便向上協議会開催

具体的取り組みに対する評価

総合時刻表の全戸配布、学校への啓発活動・地元への説明会、各広報紙・HP等での情報提供などに加え、各種イベントにおける啓発活動など、周知に関して積極的な実施がなされている。

・定量的な目標が達成できるよう、今後も利用しやすいダイヤの見直し等を積極的に実施していく必要がある。

評価から得られた課題、対応

・上記のとおり周知に関しての積極的な取組を実施しているが、利用者が伸び悩んでいることから、目標数値である利用者数を達成するには、課題を抽出し、課題解決に向けた施策に取り組み必要がある。

今回、新たな利用者の発掘に向け、地域住民への周知を目的として、宮津・与謝地域において、地域住民へのアンケートを2月に実施する予定である。

今後はアンケート結果を分析し、ニーズ等を把握し、新たな利用者を掘り起こせるよう路線再編やダイヤの見直しなどを含まれたさらなる取組に活かしていく必要がある。

アピールポイント(特に工夫した点)

・総合時刻表について、バス間の乗継及び主要バス停での乗継情報をわかりやすく掲載した。

・海の京都事業の一環として、土日祝限定で「ぐるたんバス」の運行を開始するなど、観光客が利用しやすい丹後半島周遊型の路線バスの運行を実施した。

・地域公共交通利便向上のため、沿線市町、鉄道事業者及びバス事業者が集まる鉄道とバスのダイヤ調整会議を行った。

生活交通ネットワーク計画への影響

・平成26年10月から、間人に停車する丹後峰山線を増設するなど、利用者ニーズに対応した路線再編と利便線の向上を図った。

・協働推進事業の実施により、丹後海陸交通(株)の平成27年度地域間幹線系統確保維持計画については、利用促進等の取組により平成26年度に引き続き、海岸線及び久美浜線において密度カットの緩和措置を受ける。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域協働推進事業)

平成27年1月16日

協議会名:丹後地域路線バス利便向上協議会

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③事業の今後の改善点 (特記事項含む)
【認定を受けた地域協働推進事業計画に基づいて実施した事業内容を記載】	A・B・C 評価	【事業の今後の改善点として、取組内容・関係者それぞれが果たすべき役割・連携のあり方等を記載。】 ※年度ごとの定量的な目標を定めている場合等にあつては、各年度の目標達成状況について把握しておくことが望ましい。
利用しやすいダイヤの定期的な見直し	B 事業は適切に実施されたが改善が必要	【実施状況】 10月にバスダイヤの見直しを行った。 その際に行政、利用者、乗務員等からの要望を集約し、改正に取り組んだ。 【今後の年度内の予定】 3月にバスダイヤの見直しを行う。 【目標達成状況】 ・宮津・与謝地域のH26.9末時点での目標利用者数212,500人、実績251,460人 ・京丹後地域のH26.9末時点での目標利用者数370,000人、実績348,853人 【今後の改善点】 宮津・与謝地域及び京丹後地域において目標数値に向けて、更なる利便性の向上を図るとともに新たなニーズの掘り起こしにも積極的に取り組んでいく。 そのために、住民アンケートを行い路線バス意向調査を実施し、さらに利用しやすい運行ダイヤの改善等に取り組む。
バスと鉄道、バスとバスの接続改善及び丹後半島周遊型のバスダイヤの設定等更なる利便性の向上	B 事業は適切に実施されたが改善が必要	【実施状況】 ・鉄道及びバス間での接続に考慮したダイヤ改正に向け、鉄道事業者、沿線市町、バス事業者で情報連絡会議を開催。(平成26年12月25日実施) ・平成26年10月に丹後峰山線を新設 ・平成26年7月19日から土日祝限定で丹後半島を周遊する路線バス「ぐるたんバス」の運行を開始。1時間毎のパターンダイヤの設定、主要バス停のみの停車による高速化及び上限200円バスを適用した運賃設定となっている。海の京都事業の一環として観光客等が利用しやすい路線バスの運行を実施。 【今後の年度内の予定】 ・3月の鉄道ダイヤの変更に合わせて、さらなる接続の改善に取り組む。 【目標達成状況】 ・宮津・与謝地域のH26.9末時点での目標利用者数212,500人、実績251,460人 ・京丹後地域のH26.9末時点での目標利用者数370,000人、実績348,853人 【今後の改善点】 ・域内の通学利用(帰宅利用者)に対し、全ての接続が取れてる訳ではないので帰宅時間のニーズを把握の上改善に取り組む ・来春の京都縦貫道の延伸により、京阪神からのアクセスも便利になるので、観光利用者などを増加させるために、鉄道のほか高速バスとの接続強化を図る。
企画キップの販売	A 事業は適切に実施された	【実施状況】 ・2日間の丹後地域の路線バス・観光船などの乗り放題切符を継続して販売。 ・ぐるたんバスの運行開始に合わせてぐるたんバスと鉄道、ぐるたんバスと伊根航路をセットにした企画切符「ぐるたんバス」と「ぐるたんシーバス」を販売。 ・「宇宙戦艦ヤマト」のラッピングを施した路線バスの運行開始に合わせて、数量限定の企画きっぷを販売(航路のみ)。 【実績】 ・天橋立伊根フリー(H26.10~H26.11) 1,530枚 ・ぐるたんバス (H26.7~H26.11) 206枚 ・ぐるたんシーバス(H26.8~H26.10) 46枚

外国人向け企画キップの販売(26年度新規)	A	事業は適切に実施された	<p>【実施状況】 (丹海) ・平成26年4月から訪日観光客向けの公共交通周遊パスを販売開始。多くの外国人観光客に利用して頂いている。</p> <p>【実績】 ・「海の京都エリアパス」(H26.4～H26.11) 2,178枚の売り上げ</p>
バス車内での観光案内	A	事業は適切に実施されたが改善が必要	<p>【実施状況】 (丹海) ・京丹後市エリアの一部で実施 ・「ぐるたんバス」車内においては、車内の音声案内も観光用に新しく作成し、英語案内など観光客への情報提供に取り組んだ。</p> <p>【今後の改善点】 宮津・与謝エリアの路線バスでは実施出来ていないので、安全運行を優先した上で実施エリアを増やしていきたい。</p>
地元説明会の開催	A	事業は適切に実施されたが改善が必要	<p>【地域懇談会・説明会等の実施状況】 各市町において次のとおり実施 ・京丹後市では高齢者大学で出前講座(2回)を実施し、また丹後町区長連絡協議会、丹後町民生委員定例会等で新規路線(丹後峰山線)について説明を実施。 ・伊根町では先行して上限200円化しており周知に取り組んでいるが、再度需要喚起できるよう説明会を実施。 10月6日、8日、28日、11月18日老人クラブ連合会で説明会 10月6日民生・児童委員協議会で説明会 10月9日園長会で保育所に説明 ・与謝野町では、4月に校舎長会で学校、保育所・幼稚園に対して説明(4/8園長会、4/14校舎長会) 老人会等にて出前講座を実施(4/14加悦老人クラブ、4/15野田川老人会、4/24岩滝長寿会)</p> <p>【今後の年度内の予定】 (宮津市) 老人会での周知、地元説明会を開催予定 (京丹後市) 200円バスの利用促進を図るため、必要に応じ、地元説明会を開催予定。 (伊根町) 子どものうちから公共交通に親しんでもらうため、保育園長会議での説明会を予定。乗車体験を行っていく。</p> <p>【目標達成状況】 全ての地域で実施(予定含む)</p>
学校へのバス利用の啓発活動	B	事業は適切に実施されたが改善が必要	<p>【実施状況】 ・丹後海陸交通(株)の峰山案内所にて10月2日京丹後市内の長岡小学校、丹波小学校合同でマナー講座を実施。 ・京丹後市内の峰山小学校にて11月8日に、参観日の授業の一環(お父さん・お母さん授業)として京丹後市役所職員がバスのマナー講座等を実施 ・伊根町では、丹後海陸交通(株)と6月27日に宮津高校伊根分校で公共交通マナーアップ講座を開催(主催:伊根分校 アンケートを実施)し、10月1日に小中学校長会で資料を配布。</p> <p>【今後の年度内の予定】 (宮津市) ・市内小学校でバスの乗り方・マナー教室を実施予定 (京丹後市) ・市内各小学校に対し、バス・エコファミリーの取組みと合わせ、200円バスを周知する。 ・200円バスの利用促進を図るため、必要に応じ、沿線高校で出前講座を実施する。 (伊根町) ・小中学校の協力を得ながら、公共交通利用の啓発と乗車マナーの醸成を行っていく。</p> <p>【目標達成状況】 ・宮津・与謝地域のH26.9末時点での目標利用者数212,500人、実績251,460人 ・京丹後市域のH26.9末時点での目標利用者数370,000人、実績348,853人</p> <p>【今後の改善点】 ・さらに生徒だけでなく親に対しても利用促進が出来るようなイベントの実施に取り組んでいく。 ・さらにバス事業者と各市町の行政と協力し、民官一体となってよりバスの利用促進につながる啓発活動を行っていく。</p>

各市町広報誌ホームページ等による情報提供	B	事業は適切に実施されたが改善が必要	<p>【実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各市町において毎月の広報誌への掲載やホームページで掲載 伊根町では観光協会ホームページのアクセスに400円で来れることを明記し、公共交通の利用を促進。 与謝野町では町の観光スポット「ちりめん街道」までのバス・鉄道乗り継ぎ表を作成、ホームページに掲載 <p>【今後の年度内の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き広報誌やホームページにより公共交通の利用促進について周知していく <p>【目標達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 宮津・与謝地域のH26.9末時点での目標利用者数212,500人、実績251,460人 京丹後市域のH26.9末時点での目標利用者数370,000人、実績348,853人 <p>【今後の改善点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 掲載方法や掲載媒体を工夫するなどさらなる利用につなげる必要がある。
丹後地域の路線バス広域版を含めた各市町域内の総合時刻表の全戸配布	B	事業は適切に実施されたが改善が必要	<p>【実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 鉄道及びバスのダイヤ改正に対応し、運賃・時刻・乗換等の情報を記載した総合時刻表を各戸配布した。(宮津市においては、金融機関、福祉医療施設、大型スーパー、公共機関、地区連絡所、学校等、京丹後市においては、市内各駅や観光協会などの関係機関にも配布) 丹後海陸交通(株)において総合面を掲載した独自の時刻表(10月1日改訂分)を作成・配布した。 伊根町において地元説明会で活用。 <p>【今後の年度内の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 3月にも総合時刻表の全戸配布を行う予定 <p>【目標達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 宮津・与謝地域のH26.9末時点での目標利用者数212,500人、実績251,460人 京丹後市域のH26.9末時点での目標利用者数370,000人、実績348,853人 <p>【今後の改善点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も改良を検討し、地域や学校へのモビリティマネジメント等で公共交通利用を促し、さらなる利用につなげる必要がある。
のぼり等啓発物による周知(各種イベントにおける啓発活動を含む)	B	事業は適切に実施されたが改善が必要	<p>【実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 与謝野町・・・11/2開催の既存イベントへ向かう路線バスに町のマスコットキャラクターが乗り込むことについて、事前に幼稚園へチラシを配布し、イベント当日のバス利用を呼びかけた <p>【今後の年度内の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 京丹後市において、2月1日に丹後七姫ラッピングバス(※市内のKTRの駅の愛称は、丹後七姫がモチーフとなっており、鉄道とバスの接続強化のため、バスを丹後七姫でラッピングするもの。)の出発式を開催予定。また、ラッピングバスにより、丹後七姫ゆかりの観光地へ、鉄道とバスで行くことができることをPRする。(ラッピングバスは、京丹後市市制10周年を記念し運行するものであり、デザインは大手前大学の学生によるもの。) 丹後海陸交通(株)において「宇宙戦艦ヤマト」をデザインしたラッピングバス車両を運行 <p>【目標達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 宮津・与謝地域のH26.9末時点での目標利用者数212,500人、実績251,460人 京丹後市域のH26.9末時点での目標利用者数370,000人、実績348,853人 <p>【今後の改善点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も積極的にイベント等で公共交通利用を促し、さらなる利用につなげる必要がある。

事業実施と生活交通ネットワーク計画との関連について

平成27年1月16日

	<p>協議会名： 丹後地域路線バス利便向上協議会</p>
<p>評価対象事業名：</p>	<p>平成26年度地域公共交通協働推進事業</p>
<p>地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)</p>	<p>丹後地域の路線バス利用者については、平成17年度に立ち上げた「分かりやすく、使いやすい公共交通ネットワーク実現会議」の取組などにより、地域内の人口減少が進む状況にありながらも、当該地域においては一定利用者を維持している。しかしながら、このまま人口減少や市街地の郊外化が進むと、公共交通に対する利用者を確保することが困難となり、バスの減便や路線廃止又はそれに伴うタクシーや過疎地有償運送等他の移動手段への変更を余儀なくされる可能性があるため、今後も地域のバス路線を健全に維持していく必要がある。</p> <p>こうした状況に対して、現状を放置せず、地域全体が連携し、中長期的に路線バスを当該地域の公共交通として健全に維持することを目的とし、事業を実施する。</p>

資料4-3

平成27年度 公共交通利用促進の取組について

1 バスの利用促進

■周知・啓発事業

○総合時刻表の作成（9月と3月に全戸配布）

路線、時刻、乗換などの情報をわかりやすく掲載した「鉄道・バス時刻表」を発行

○広報、周知

・市町の広報誌、ホームページ等による情報提供・取組周知

・有線テレビによる情報提供・取組周知（与謝野町）

・200円バスのプロモーションビデオ作成・ネット配信（京丹後市）

○学校や学生等への啓発活動

・園児・児童・生徒を対象にバスの利用マナー向上等の出前講座を実施

・宮津高校、加悦谷高校への利用周知・啓発（宮津市、与謝野町）

・バスエコファミリーの実施

・駅への送迎車利用者に対するバス利用呼びかけチラシ配布（与謝野町）

・マスコットキャラクターによる既存イベント時のバス利用呼びかけ（与謝野町）

○地域住民等への啓発活動

・地元説明会や意見交換会の実施

・高齢者や外国人を対象に乗り方等の出前講座を実施（京丹後市、与謝野町）

■観光誘客事業

○海の京都回遊システムの構築（宮津市でGW等の繁忙期に社会実験として実施）

宮津マルシェを基点として、天橋立周遊観光を目的としたバスを運行

※ 宮津マルシェ：浜町地区周辺に観光客や地元住民が集える空間を創出する事業

■利用支援事業

○高齢者等運転免許証自主返納支援事業の実施

運転免許証の返納者に対し、乗車チケット（6か月分）を進呈

■使いやすいダイヤ・路線への検討

○一般住民向けアンケート調査（26年度実施）結果を元に、住民へのフィードバックやダイヤ、路線の見直しを検討。（宮津市、伊根町、与謝野町、丹海）

〔（その他検討すべき利用促進策として）〕

○運転免許返納時の乗車チケット配布の期間延長

○転入者に対し、時刻表・バスマップと合わせ回数券などの配布

2 タクシーの利用促進

■観光ルート利用促進

○海の京都観光推進協議会ホームページに記載している観光モデルコースについて、公共交通利用者のアクセス交通として、タクシーを利用した場合のルートや金額などをホームページに記載し、観光客への情報提供を図る。

路線バスの改善のための意向調査 企画書

1 目的

宮津与謝エリアの200円バスの運行開始から1年が経過したことを踏まえ、バス利用の実態と需要の把握のための地域住民向けのアンケート調査を行い、今後のダイヤ等の改善につながるための基礎資料とする。

また、更なる200円バスの利用促進と新たな利用者獲得のため、PRチラシを同紙面に掲載し、地域住民への周知を図る。

2 調査設計

- ①調査地域 宮津市、与謝野町、伊根町
- ②調査期間 平成27年2月上旬から平成27年2月下旬まで(約2週間)
- ③調査方法 配布方法：無作為抽出(性別・世代別)による郵送
回収方法：後納による郵送方式

3 調査項目

- ①属性の把握
性別、年齢、居住地について、200円バスの認知度と利用の有無
- ②バスを利用している方
利用しはじめた時期、200円バスによる効果(利用開始の時期・利用頻度)
バス利用の不満な点、利用目的地の把握
- ③バスを利用したことがない方、しなくなった方
利用しない・できない、利用しなくなった理由、利用する場合の目的地
- ④その他
公共交通についての考え方など

4 集計・分析

各市町により回収し、自前で集計・分析。また報告書作成、調査結果を公表

5 スケジュール

- 2月上旬 調査票の配布
- 3月上旬～ 集計・分析
- 4月下旬 報告書作成
- 4月下旬 広報誌・HPにより調査結果を公表

(路線バスを利用したことがない方、利用しなくなった方)

3 路線バスを利用したことがない方、利用しなくなった方におたずねします。

①あなたが路線バスを利用しない、または利用しなくなった理由をお聞かせください。

(3つまで選択)

- | | |
|----------------------------|-----------------------|
| 1. 利用したい時間と運行ダイヤが合わない | 2. 乗換があり移動が困難 |
| 3. 目的地付近のバス停がない | 4. 自宅からバス停までの距離が遠い |
| 5. 朝夕の運行本数が少ない | 6. 日中の本数が少ない |
| 7. 最終便が早すぎる | 8. 運賃が高い |
| 9. 時刻表どおりにバスが来ない | 10. 自家用車を運転するので必要ない |
| 11. 家族の送迎があるので必要ない | 12. 路線が変わり目的地に行けなくなった |
| 13. ダイヤ改正で利用したい時間帯の便がなくなった | |
| 14. ご自由に記載ください | |

()

②路線バスを利用するとしたら、利用目的と目的地を教えてください。

- | | |
|--------------------|----------|
| 1. 通勤・通学 | 2. 通院 |
| 3. 家の用事(買物や金融機関など) | 4. 社交・娯楽 |
| 5. その他() | |

また、出発地と目的地をご記入ください。

出発地 _____ 目的地 _____

(公共交通について)

4 公共交通(路線バス・KTR)についての意見がありましたらご記入ください。

(運賃や運行しているルート、利便性の向上につながるものなど、些細なことでも結構ですので、何かあれば記入してください)

～御協力ありがとうございました～

調査票は、添付の封筒に入れて、郵便で返送ください。(切手は要りません)

丹後地域路線バス利便向上推進事業計画

平成 25 年 8 月

丹後地域路線バス利便向上協議会

1. 協働推進事業を実施しようとする地域

京都府の北部に位置し、日本海に面する丹後地域（宮津市、京丹後市、伊根町及び与謝野町）の2市2町

2. 当該地域の公共交通の概況・問題点

【 概 況 】

丹後地域（宮津市、京丹後市、与謝郡伊根町及び与謝野町）の2市2町では、公共交通として、北近畿タンゴ鉄道株式会社が鉄軌道を、丹後海陸交通株式会社が幹線、枝線の路線バスを各市、町がコミュニティバスを運行し、地域住民の移動手段を確保、維持している。

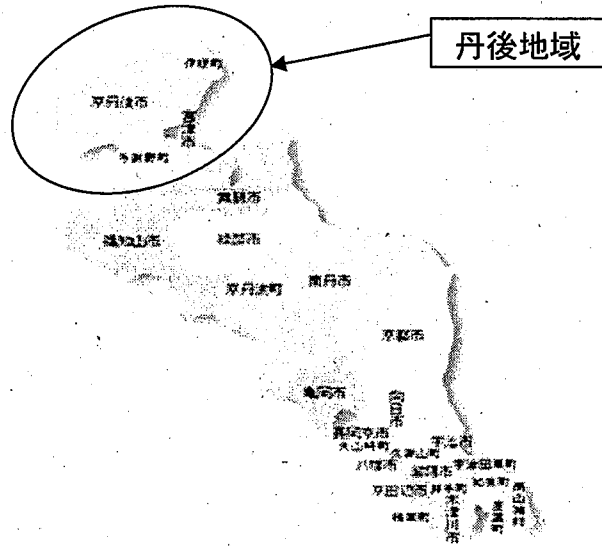
当該地域は、人口減少と高齢化が進展しており、また、日常の移動手段はマイカーが中心となっており、公共交通を取り巻く環境は厳しい状況にある。

公共交通は、広域的な移動手段として北近畿タンゴ鉄道株式会社（以下、KTRと言う）が鉄軌道を、地域間幹線を丹後海陸交通株式会社が路線バスを運行している。

また、域内の枝線（以下、フィーダーと言う。）については、丹後海陸交通株式会社の路線バスの他、各市町営のバスが運行されている。

KTRの利用者は減少しているが、路線バスの利用者については、全国的に公共交通の利用者が著しく減少している中、平成17年度に立ち上げた「分かりやすく、使いやすい公共交通ネットワーク実現会議」の取組などにより、地域内の人口減少が進む状況にありながらも、当該地域においては一定利用者を維持している。

今後、人口減少や市街地の郊外化が進むと、公共交通に対する利用者を確保することが困難となり、路線バスの減便や廃止等により交通弱者と呼ばれる人達の移動手段が維持できないこととなる。



【 問題点 】

1 人口減少と少子高齢化による公共交通への総需要の減少

人口減少、少子高齢化により、通勤や通学、通院、買い物など交通需要そのものが減少している。

3. 当該地域において協働推進事業を実施する必要性

【 必要性 】

丹後地域の路線バスの利用者については、全国的に公共交通の利用者が著しく減少している中、平成 17 年度に立ち上げた「分かりやすく、使いやすい公共交通ネットワーク実現会議」の取組などにより、地域内の人口減少が進む状況にありながらも、当該地域においては一定利用者を維持している。

しかしながら、このまま人口減少や市街地の郊外化が進むと、公共交通に対する利用者を確保することが困難となり、バスの減便や路線廃止又はバス路線の集約とそれに伴うタクシーや過疎地有償運送等の他の移動手段変更を余儀なくされることとなる。

こうした状況に対して、現状を放置せず、地域全体が連携し、中長期的に路線バスを当該地域の公共交通として健全に維持するために取り組むことが必要である。

【 丹後地域の課題 】

1 地元利用者への需要喚起

当該地域におけるバス交通の主な利用者は、病院への通院や高等学校への通学のために利用する高齢者や学生であり、利用者ニーズを把握して、利便を向上させるとともに、アンケートやワークショップ等のモビリティ・マネジメントにより、マイカーによる通院、通学の送迎に対する意識の転換や、通勤者に対する情報提供等、需要喚起の取組を進める必要がある。

2 観光利用者への需要喚起

当該地域には、天橋立や伊根等の優れた観光地を有しており、多くの観光客が訪れることから、これらの需要を路線バスに取り込むことにより路線の維持につなげることが期待できる。

ただ現状では、どのバスに乗れば目的地まで行けるのか、初めて訪れる観光客等には分かりにくい状況である。

観光客にも分かりやすく、使いやすい路線バスとなるよう、バス車両への工夫や停留所標記への改善、分かりやすいバスマップ等により観光客に対する情報提供等、需要喚起の取組を進める必要がある。

3 丹後半島全体の公共交通利便の向上

「海の京都」構想のもと魅力ある観光まちづくりに取り組む中で、丹後半島への人の流れが増大することが予想される。

これらの需要を公共交通に取り込むことにより地域の生活交通の維持に繋げることが期待できるため、鉄道とバス、バスとバスなどがストレス無く乗り継ぎできるようダイヤ改善を行い、将来的には、丹後半島全域がパルスタイムテーブル化できるよう取組が必要である。

また、当該地域の優れた観光資源は、広い範囲に点在しており、それらを周遊できるシステムが十分に整備されていないため、丹後半島全体として、一体的に公共交通の利便を向上させる必要がある。

4. 協働推進事業実施に際しての定量的目標

● 目 標

地域住民や観光客の利便性向上等を図り、利用者を増やすことで現在の路線バスを減便や路線廃止することなく維持、確保する

● 定量的な目標

利用促進の取組等により、平成 27 年 9 月末時点での 1 年間の利用者数

6 2 5, 0 0 0 人を到達目標 (※) とする。(平成 24 年 9 月末時点の 1.1 倍)

- ・ 宮津・与謝地域は255,000人 (23年度利用者数の1.5倍)
- ・ 京丹後市域は370,000人 (25年度利用者見込み数を維持)

※到達目標とは実施年度で達成する目標ではなく、取組を継続する中で利用者を増加させながら 2 年～3 年程度の目安で到達させる目標のこと (京丹後市の事例では 4 年目の運行で到達目標に達した。)

5. 地域協働推進事業を実施する期間

平成 25 年 10 月～28 年 9 月

6. 協働推進事業において実施する事業

取組内容	年度		
	1 年目 (平成 25 年度)	2 年目 (平成 26 年度)	3 年目 (平成 27 年度)
利用しやすい運行ダイヤ、路線	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者へのアンケート調査等やOD調査等により、利用者ニーズを把握し利用しやすいダイヤへ定期的に見直し (丹後海陸交通(株)、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町) ・バスと鉄道またバスとバスとの接続改善及び丹後半島周遊型のバスダイヤの設定等による更なる利便性の向上 (丹後海陸交通(株)、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町) 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者へのアンケート調査等やOD調査等により、利用者ニーズを把握し利用しやすいダイヤへ定期的に見直し (丹後海陸交通(株)、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町) ・バスと鉄道またバスとバスとの接続改善及び丹後半島周遊型のバスダイヤの設定等による更なる利便性の向上 (丹後海陸交通(株)、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町) 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者へのアンケート調査等やOD調査等により、利用者ニーズを把握し利用しやすいダイヤへ定期的に見直し (丹後海陸交通(株)、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町) ・バスと鉄道またバスとバスとの接続改善及び丹後半島周遊型のバスダイヤの設定等による更なる利便性の向上 (丹後海陸交通(株)、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町)
観光客への利用促進	<ul style="list-style-type: none"> ・企画キップ等 (丹後半島周遊) の販売 (丹後海陸交通(株)) ・車内での観光案内 (丹後海陸交通(株)) 	<ul style="list-style-type: none"> ・企画キップ等 (丹後半島周遊) の販売 (丹後海陸交通(株)) ・外国人向け企画キップの販売 (丹後海陸交通(株)) ・車内での観光案内 (丹後海陸交通(株)) 	<ul style="list-style-type: none"> ・企画キップ等 (丹後半島周遊) の販売 (丹後海陸交通(株)) ・外国人向け企画キップの販売 (丹後海陸交通(株)) ・車内での観光案内 (丹後海陸交通(株))

マイバス意識の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ・地元説明会の開催（宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町、丹後海陸交通(株)） ・学校へのバス利用の啓発活動（宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町、丹後海陸交通(株)） 	<ul style="list-style-type: none"> ・地元説明会の開催（宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町、丹後海陸交通(株)） ・学校へのバス利用の啓発活動（宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町、丹後海陸交通(株)） 	<ul style="list-style-type: none"> ・地元説明会の開催（宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町、丹後海陸交通(株)） ・学校へのバス利用の啓発活動（宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町、丹後海陸交通(株)）
情報を幅広く提供	<ul style="list-style-type: none"> ・上限 200 円バス出発式の開催（丹後海陸交通(株)、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町） ・各市町広報誌やホームページ等による情報提供（宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町） ・丹後地域の路線バス広域版を含めた各市町域内の総合時刻表の全戸配布（宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町） ・のぼり等啓発物による周知（宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町） ・幹線バス車両側面に幹線バスである旨及び上限 200 円バスである旨を地元住民、観光客に分かりやすく周知（丹後海陸交通(株)） 	<ul style="list-style-type: none"> ・各市町広報誌やホームページ等による情報提供（宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町） ・丹後地域の路線バス広域版を含めた各市町域内の総合時刻表の全戸配布（宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町） ・のぼり等啓発物による周知（宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町） 	<ul style="list-style-type: none"> ・各市町広報誌やホームページ等による情報提供（宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町） ・丹後地域の路線バス広域版を含めた各市町域内の総合時刻表の全戸配布（各市町） ・のぼり等啓発物による周知（宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町）
<p>(注) 各取組内容について、実施主体を明記すること。 欄が不足する場合には必要に応じて別業に記載するなど、適宜様式を変更すること。</p>			

7. その他特記すべき事項

■全国からも注目される取組

①NHK番組で全国放送予定

NHK番組「あさいち」(8時15分～9時54分)の平成25年9月5日(木)の全国放送枠の中で、丹後地域(宮津市、京丹後市、与謝郡伊根町及び与謝野町)の2市2町の職員と運行事業者(丹後海陸交通株)が協働して取組む様子が5分程度放映予定(取材は8月)。10月のダイヤ改正では丹後半島周遊型の新ダイヤを設定し、乗継拠点整備(結節点へのバス乗入、バスの回転場整備)を行い、バスとバスとの接続改善を図るとともに、世界的に有名なデザイナーである水戸岡鋭治氏が手掛けた観光型列車「あかまつ号」との接続を可能とするなど、鉄道との接続を強化し、さらには遊覧船・ケーブルカーなどと総合的な公共交通のネットワークを形成します。特に、日本三景の「天橋立」や「伊根の舟屋」、鳴き砂で有名な「琴引浜」など多くの観光拠点が点在していたものの、ネットワーク性が低かったために周遊型観光が殆ど見られなかったことから、観光客にとっても便利で使いやすい地域の公共交通ネットワークを構築するものである。

②国土交通省の機関紙「国土交通」9月発行号掲載予定

上記と同様に、関係者が協働し取り組む様子や10月から開始する200円バス運行が掲載予定

■懐に入る広報と利用者ニーズの把握

交通手段を持たない高校生とその保護者や高齢者に直接、情報提供ができるよう丹後地域の高校の協力をいただき、クラスHR等での情報提供やヒアリング・アンケート調査による利用者ニーズの把握を行い、半年に1回のペースで200円バスの運行ダイヤの改善を行う。

(参考) 地域協働推進事業の実施に必要な資金の額及びその調達方法

1年目(平成25年度)	2年目(平成26年度)	3年目(平成27年度)
事業費 4,251千円 国庫申請額 2,125千円 市町負担額 1,953千円 事業者負担額 173千円 ※ 総合時刻表は各市町で、丹後地域広域ページ(2市2町同じもの)を含むものを作成(同じ広域ページを掲載する取組は初めて)	事業費 4,000千円 国庫申請額 2,000千円 市町負担額 1,750千円 事業者負担額 250千円 ※ 総合時刻表、企画キップの情報提供、モビリティ・マネジメント等に伴う経費を想定 ※ 総合時刻表についてはダイヤ改正情報及び利用者の声を反映し、路線バス利用方法等の掲載を検討(特に広域ページを検討)	事業費 3,000千円 市町負担額 3,000千円 ※ 総合時刻表、モビリティ・マネジメント等に伴う経費を想定 ※ 総合時刻表についてはダイヤ改正情報及び利用者の声を反映し、路線バス利用方法等の掲載を検討(特に広域ページを検討)

注1 年度ごとに、当該年度に実施する地域協働推進事業の実施に必要な資金の額及びその調達方法を記入すること。

注2 地域協働推進事業費補助金の活用を検討している場合には、その点を明記すること。

ただし、本事業計画の認定を受けた場合であっても、補助金の交付決定を保証するものではないことに留意すること。



「丹後地域路線バス利便向上協議会」規約

(設置)

第1条 宮津市、京丹後市、与謝郡伊根町及び与謝野町地域においては、今後、利用者の確保が困難になる中、地域住民との連携による利用促進を行うとともに、「海の京都」事業等により見込まれる観光客の利用も促すことで、丹後地域全体の公共交通の利便を向上させ、地域の活性化に寄与することを目的に「丹後地域路線バス利便向上協議会」(以下「協議会」という。)を設置する。

(所掌事項)

第2条 協議会は、次の事項について協議、調整及び実施等を行う。

- (1) 路線バスを丹後地域全体で、より便利で使いやすい公共交通とするため、宮津市、京丹後市、与謝郡伊根町及び与謝野町が連携して諸課題を改善するための計画(以下「連携計画」という。)及び地域住民等と連携して取組を進めるための計画(以下「協働推進事業計画」という。)の作成
- (2) 連携計画及び協働推進事業計画の実施
- (3) 連携計画及び協働推進事業計画に係る取組実績の把握
- (4) 連携計画及び協働推進事業計画に係る継続的な見直し
- (5) その他、路線バス運行に伴う利便の向上に向けた取組全般に関すること

(計画の実行)

第3条 連携計画及び協働推進事業計画の実施に当たっては、協議会及びその委員並びに委員の所属団体をはじめ、連携計画及び協働推進事業計画の「実施主体」欄に記載の者が、それぞれの立場で、主体的に取り組むものとし、PDCAサイクルに則り取組を継続的に行うよう努めるものとする。

2 委員は、地元住民、地元企業、その他路線バスを便利にしようという思いのある者に、取組を働きかけるものとする。

(情報の公開)

第4条 前2条に係る協議内容及び改善の取組状況等については、広く府民等に情報を提供し、意見を聞くものとする。

(組織)

第5条 協議会は別表1に掲げる委員により構成する。

(座長)

第6条 協議会に座長を置き、委員の互選によってこれを定める。

- 2 座長は協議会の会務を総理する。
- 3 座長に事故のあるときは、座長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。
- 4 座長は、必要に応じて専門部会を置くことができる。
- 5 前項に定める専門部会の構成員は、座長が別に定める。

(会議)

第7条 会議は座長が招集する。

2 座長は、必要に応じて委員以外の者の出席を求めることができる。

(事務局)

第8条 第2条に規定する協議会の所掌事項を円滑に行うため、協議会に事務局を置く。

2 協議会の事務局は、京都府建設交通部交通政策課、京都府丹後広域振興局企画総務部企画振興室、宮津市企画総務室、京丹後市企画総務部企画政策課、伊根町総務課及び与謝野町企画財政課により構成する。

3 事務局長は、京都府建設交通部交通政策課長をもって当てる。

(その他)

第9条 この協議会は、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」(平成19年法律第59号)(以下「法」という。)第5条第6項に規定する協議会の性格を有するものとし、継続的に見直される連携計画は、法第5条第1項に定める「地域公共交通総合連携計画」(以下、「総合連携計画」という。)に位置づけることができるものとする。

2 第2条に規定する所掌事項の執行に当たって、連携計画及び協働推進事業計画として、国から認定を受けた事業について、国庫補助事業である「地域協働推進事業」を活用する場合、関係する事務は協議会が行うものとする。

第10条 この規約に定めるもののほか、必要な事項については、座長が別に定める。

2 前条第2項について、適正な執行を確保するため、「丹後地域路線バス利便向上協議会」財務規程、「丹後地域路線バス利便向上協議会」文書取扱規程、「丹後地域路線バス利便向上協議会」公印取扱規程及び「丹後地域路線バス利便向上協議会」監査実施規程を別に定める。

附 則

この規約は、平成25年8月28日から施行する。

別表1

「丹後地域路線バス利便向上協議会」委員

地元利用者代表

地元経済界代表

学識経験者

交通事業者の代表者等

関係地方公共団体等

公安委員会

道路管理者

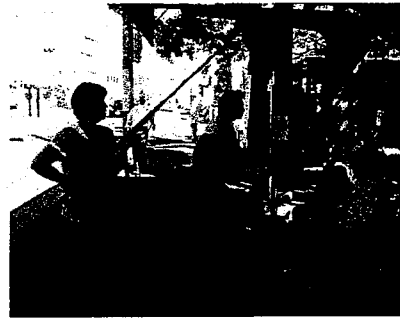
国土交通省近畿運輸局

200円バス利用促進の取組状況(宮津市)

地元説明会の様子



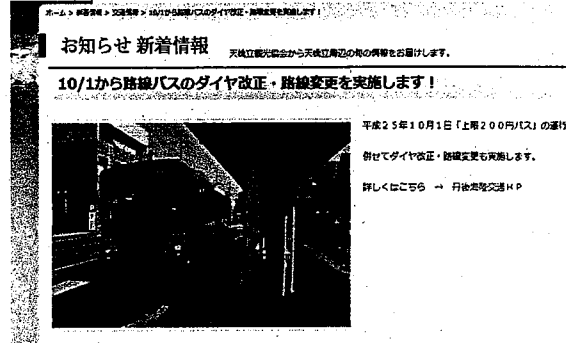
200円バスCMの上映



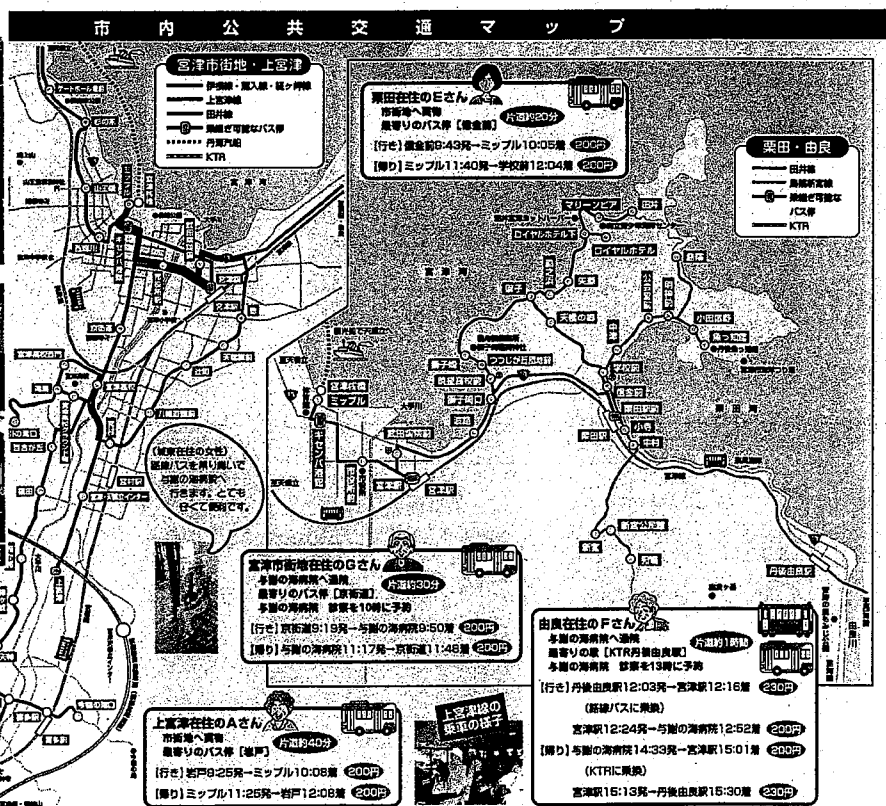
地元団体の200円バスのご利用



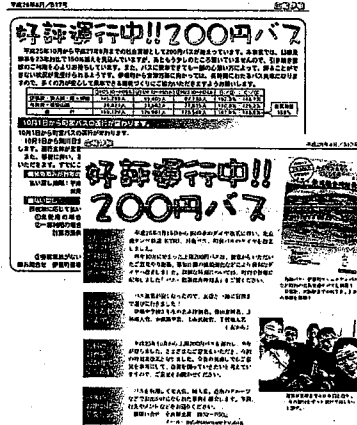
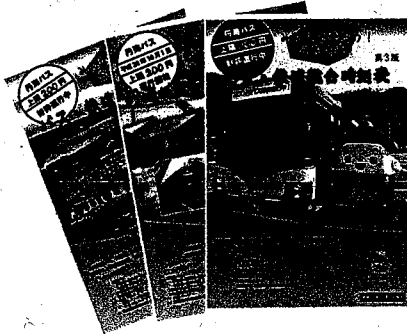
ホームページ作成・観光団体等への掲載



200円バス利用促進の取組状況(宮津市)



200円バス利用促進の取組状況(伊根町)



200円バス利用促進の取組状況(与謝野町)



↑小学生対象のバスマナー教室を実施

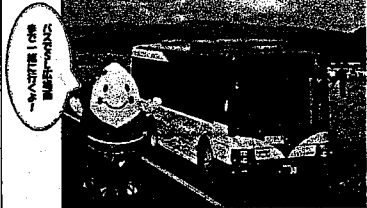


←マスコットキャラクターバスの実施。

↑実施前にはチラシで保育園児に乗車を呼びかけた。

滝・金屋 命の星大感謝祭、SL 広場周年祭、りんご祭

11/2 バスでイベントに出かけよう!
まめっこまいちゃんが200円バスに乗るよ!



11月2日、加納SL広場・道の駅周辺で3つのイベントが開催されます! 道の駅駐車場でのフリーマーケットやSL広場での周遊ミニ列車の運行、暖炉あつがるふーりでのステージイベントや果物店など、楽しい催しが盛りだくさんです! (詳しい内容は10月29日頃に発行予定の前掲折り込みチラシをご覧ください)
当町のバス停から会場に向けて「まめっこまいちゃん」が200円バスに乗ります。バスと一緒に秋のイベントへ出かけませんか。

- 日 ち 11月2日(日) ※イベント 10:00~15:00
- まめっこまいちゃん乗車バス
バス停「岩橋」9:37発→「SL広場西」10:18着
(バス停「SL広場西」のイベント会場1で待って3~16分ほどです)
- その他 車内で、抽選付きチラシ、スタンプラリーカードを配布します。
- 注意事項 乗車人数が多く、バスに乗りきれない場合、臨時増発等ができませんので、自家用車などの交通をご利用ください。
- 乗りバス バス停「SL広場西」12:47発または13:42発

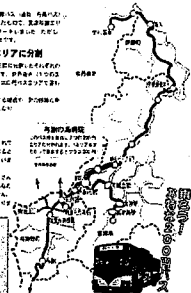
200円バス利用促進の取組状況(与謝野町)

運行開始から1年！
乗ってますか？
200円バス

乗って守ろう 路線バス

上級 200円バスとは？
乗って守ろう 路線バス
乗って守ろう 路線バス
乗って守ろう 路線バス

乗って守ろう 路線バス
乗って守ろう 路線バス
乗って守ろう 路線バス



加悦谷高校生にアンケートを実施。
PRチラシを配布し利用呼びかけ。

200円バスでお出かけしませんか？ (お問い合わせ)

200円バスとは？
乗って守ろう 路線バス
乗って守ろう 路線バス

乗って守ろう 路線バス
乗って守ろう 路線バス
乗って守ろう 路線バス

乗って守ろう 路線バス
乗って守ろう 路線バス
乗って守ろう 路線バス

↓野田川駅にて高校生を駅まで送迎する親御さんに対してアンケートを実施。PRチラシの配布と利用の呼びかけも行う。

お子さんを駅まで送迎される皆さん
200円バスで通学しませんか？

通学定期券について
乗って守ろう 路線バス
乗って守ろう 路線バス

乗って守ろう 路線バス
乗って守ろう 路線バス
乗って守ろう 路線バス

乗って守ろう 路線バス
乗って守ろう 路線バス
乗って守ろう 路線バス



↑高校生の利用が増加しています

↑老人クラブの総会にて200円バスの利用方法や高齢者免許返納制度等について出前講座を実施。PRチラシも配布。

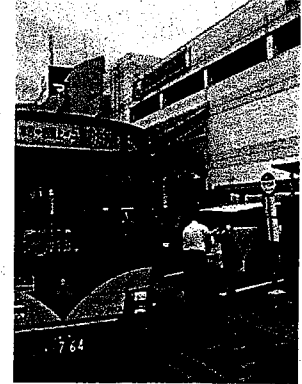
200円バス利用促進の取組状況(京丹後市)



住民が木製ベンチ制作



高校生が待合所制作



ショッピングセンターが待合所設置

地元デザイナーが無償デザイン提供

